

ノーリツ、今年の「女性の食に関する意識」を調査
60代女性の危機感強く 85%が「自給率低い」
8割の女性が「夕食が重要」しかし半数が「負荷が大きい」

～ 全国の女性 784 人に調査 ～

湯まわり設備メーカーの(株)ノーリツ(本社:神戸市、取締役社長:神崎 茂治、資本金:201億円、東ノ大証一部上場)は、女性の食事に関する意識について、全国の20～70代の女性784人を対象に意識調査を行いました(巻末に概要を記載)。

今年は小麦の値上げによるパン価格の上昇、生乳価格の高騰による乳製品価格の上昇などが続き、7月25日に発表された6月の全国消費者物価指数は9ヶ月連続で前年を上回りました。身の回りの「食」の物価の上昇の勢いは衰えません。第1章では、生活者にとって非常に厳しい現在の状況における、女性の「物価上昇と食生活」に関する意識を調べました。

このような状況下ですが、女性の社会進出は着々と進んでおり、総務省統計局の「労働力調査」によると、平成19年の女性の労働力人口は前年差4万人増の2,763万人と、4年連続で増加しています。そのうち有配偶者率は48.9%と前年比0.4ポイントアップ、「働きながら家事をこなす」女性が増加していることが推察されます。第2章では、今年ならではの話題の1つとして、働いている人を含めた女性の「食事観」について調査しました。

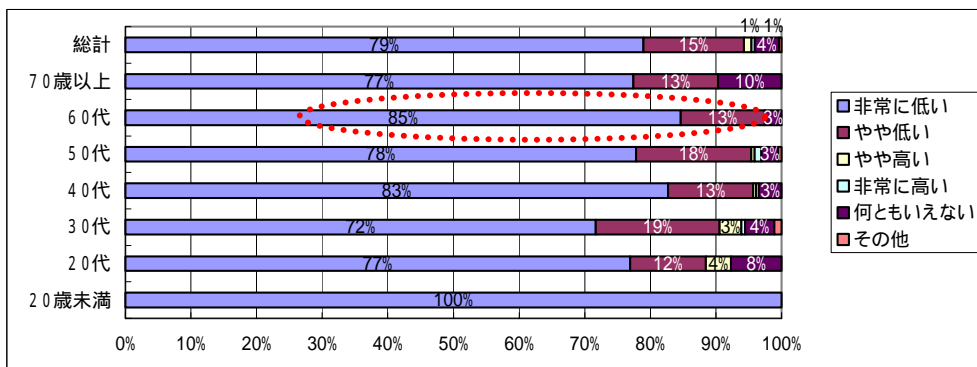
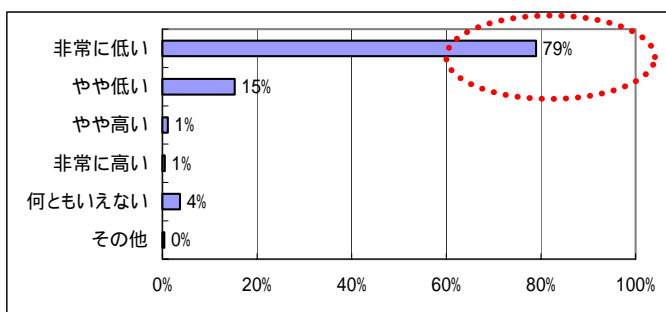
第1章 物価上昇と食生活

60代女性の危機感最も強く「自給率低い」と85%が回答、9割が「和食回帰」の意向

第1章では、女性の「物価上昇と食生活」に関する意識を調べました。

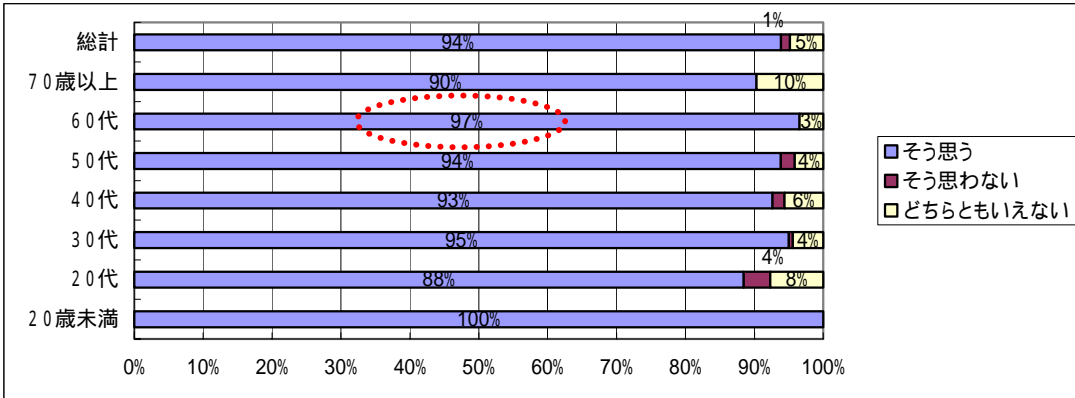
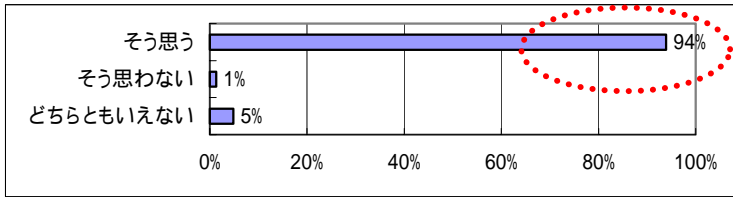
まず、「現在の日本の食料自給率」について尋ねたところ、8割の女性が「非常に低い」と回答。相当な危機感が現れました。特に、60代の「非常に低い」「やや低い」という解答が全世代中でもっとも高くなりました。60代は戦後の物資が少ない時期に幼少期を過ごした年代であり、高い危機意識を持っていることがうかがえました。

現在の日本の食料の自給率についてどう思いますか。(n=784)



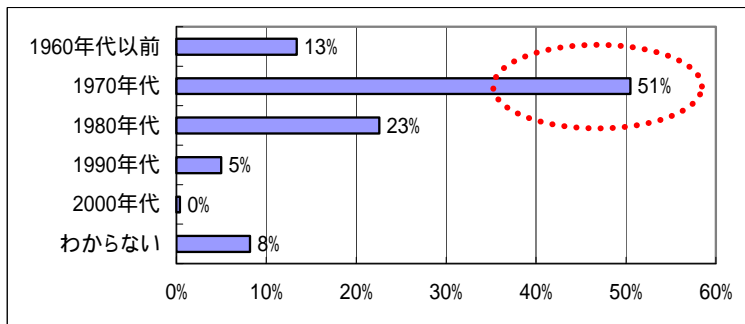
また、今後自給率を上げていくべきかどうかについても、60代の女性が最も多い回答となりました。

今後日本は食料の自給率を上げていくべきと考えますか。(n=784)



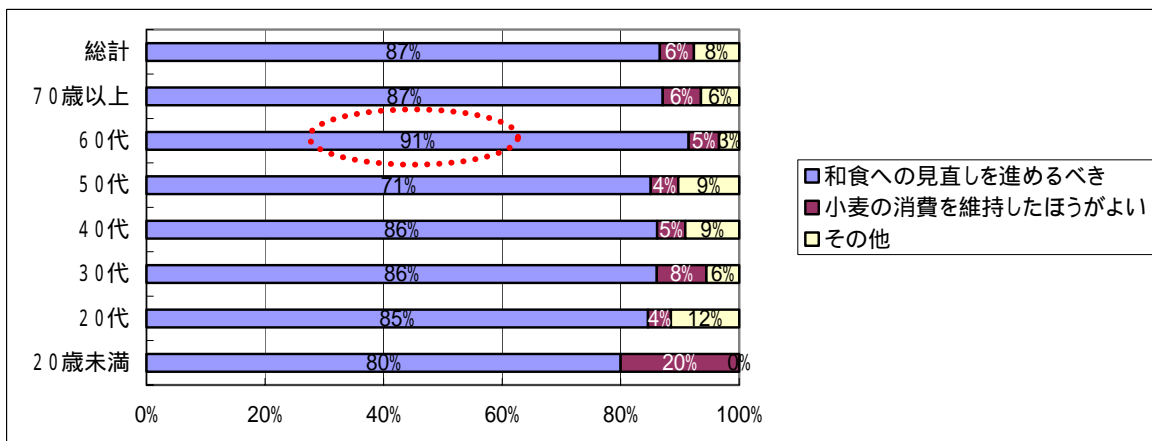
ちなみに、日本の食生活が欧米化した年代をたずねたところ、「70年代」と回答する人が多く、高度成長期に日本の食生活も変化したという感覚をもっている女性が多いようです。

あなたは日本の食生活が欧米化したのはいつごろだと思いますか。(n=784)



すっかり食生活が欧米化した現代ですが、最近では小麦の高騰などを受けて米食など和食スタイルのよさが見直されています。これについては、60代の女性の9割が「見直しを進めるべき」と回答。全世代を通じて高い支持率でしたが、最も低かったのは50代で7割と、60代と比べて20ポイントの開きがあったのが印象的です。

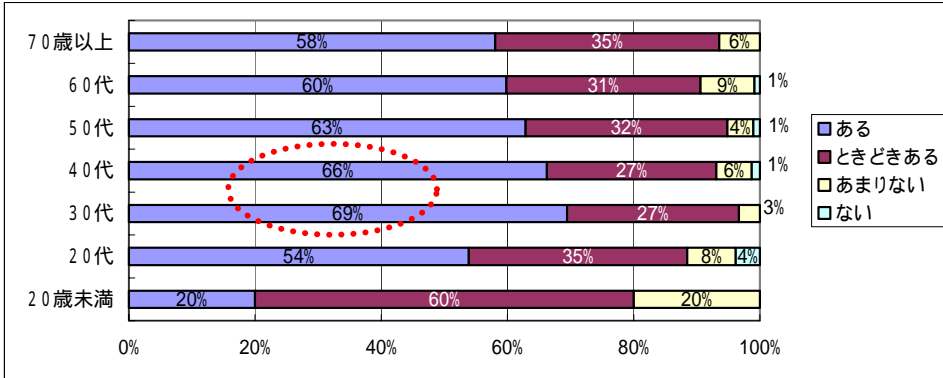
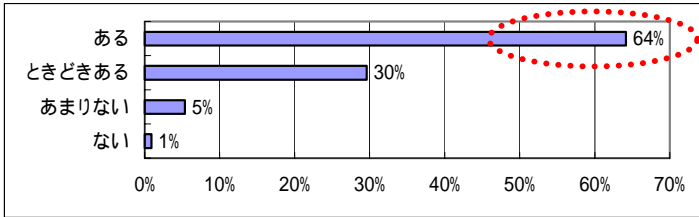
小麦の高騰などを受けて、米食などの和食の見直しが進んでいますが、あなたはどう思いますか。(n=784)



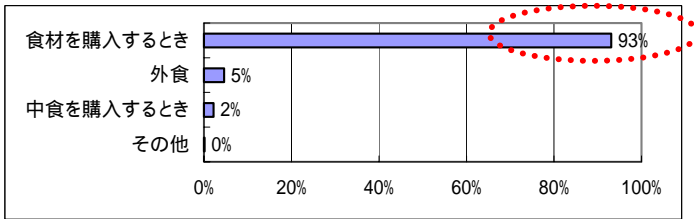
64%の女性が「食品の値上げ実感」、9割が食材購入の場面で意識

現在、生活の中で避けて通れない食品の値上げ。普段意識することがあるかどうかについては、64%の女性が「ある」と回答。年代別では、子育て世代ほどその数字が高く、30・40代では7割にのぼります。

あなたは食品や食材を買う時、食品の値上げを意識することがありますか。(n=784)

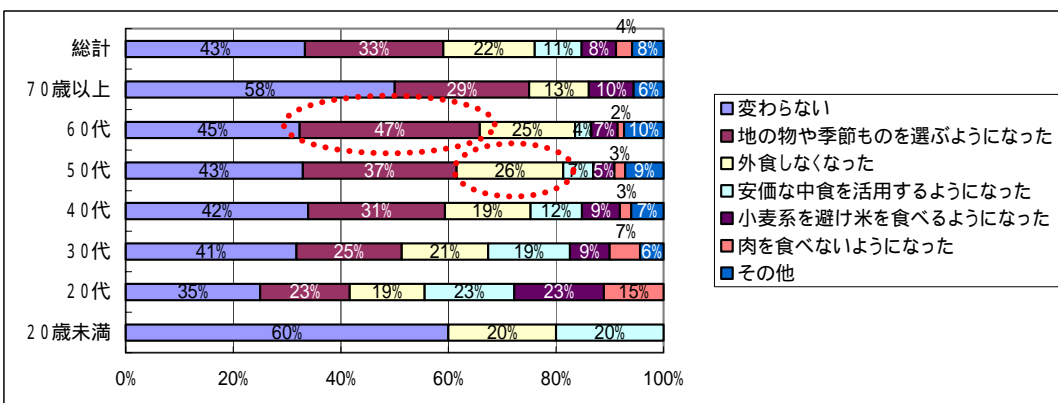
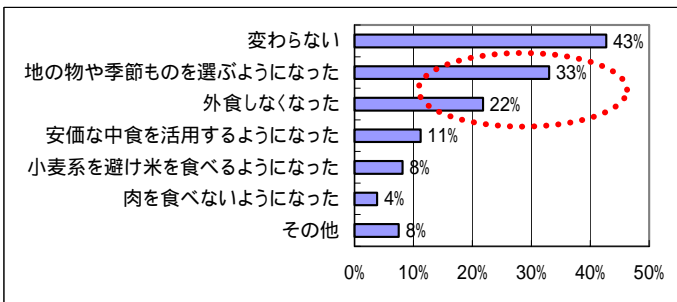


やはり食材をスーパーなどに購入しに行くときに、値上げを実感するという女性が圧倒的で、全体の93%が回答しました。それはどんな場面ですか。(n=735)



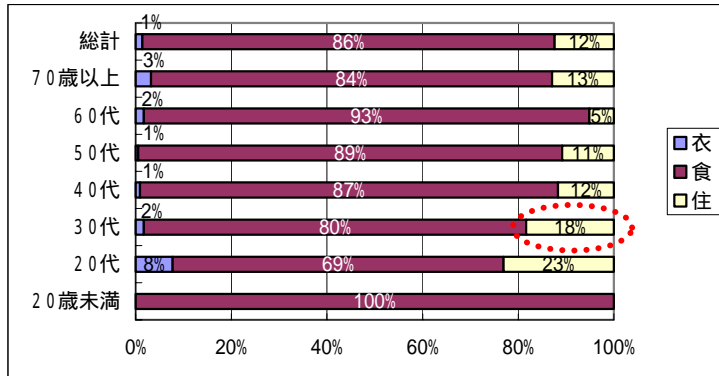
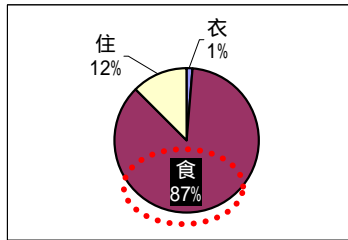
具体的な生活の変化としては、女性全体では「地のものや季節ものを選ぶようになった」という回答が33%、「外食をしなくなった」という回答が22%でした。米をより食べるようになったという回答も8%ありました。「地のものや季節ものを選ぶようになった」率は60代が最も高く、外食をやめた率ももっとも高いのは子育て世代最後の50代でした。

食品の値上げを受けて、あなたの生活はどのように変わりましたか。(n=784、複数回答)



最後に、「衣・食・住」の中で最も需要だと思うものを挙げてもらったところ、「食」という回答が圧倒的で、87%でした。生命の基本である「食」について、多くの女性が真剣に考えている様子が伝わってくる数字です。なお、子育て世代の30代は「住」という回答が2割に達しました。全世代的に見て「衣」という回答は少数でした。

あなたが現在、衣・食・住の中で最も重要だと思うものは。(n=784)



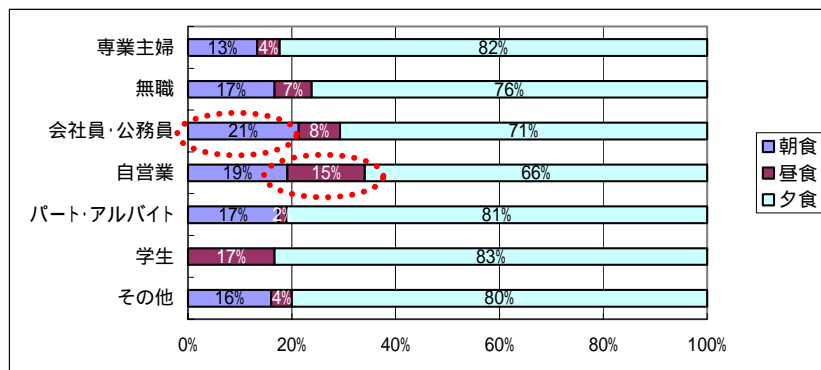
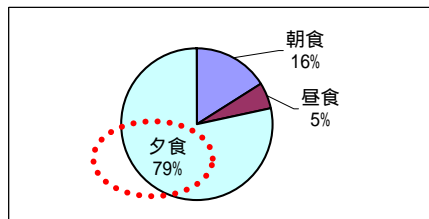
第2章 女性の「食事観」

最も「大切な食事」は「夕食」、しかし「負荷が大きい」と回答する女性が半数

働く女性が増加しつつある中、現代女性は「食事」に関してどんな価値観を大切に生活しているのでしょうか。

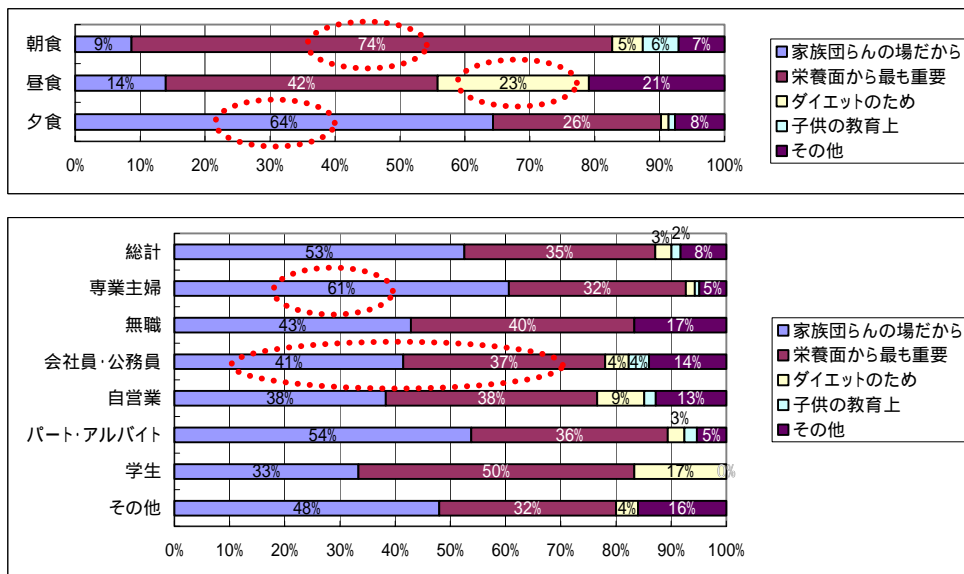
まずは、「一日の中で最も大切にしている食事」を尋ねたところ、「夕食」と回答した女性が8割にのぼりました。「朝食」という回答が最も多かった職業は会社員・公務員の2割、「昼食」は社会人では自営業の15%という回答率が最も高くなりました。

一日の中であなたが最も大切にしている食事は。(n=784)



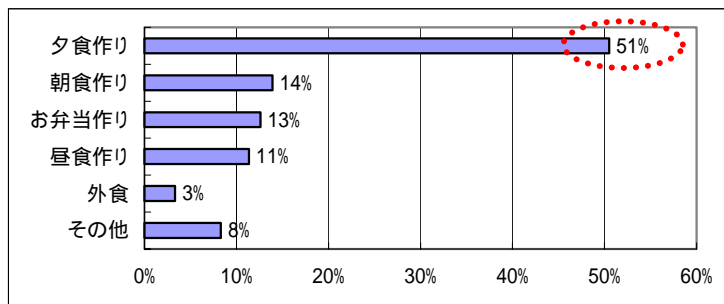
「夕食」と回答した人にその理由を尋ねたところ「家族団らんの場だから」という回答が64%にのぼりました。いっぽう、「朝食」は「栄養面から最も重要」という意見が74%になりました。また、「昼食」は、「ダイエットのため」という意見が2割を占める

のがちょっと面白い特徴です。職業別にみると、専業主婦は「家族団らん」という観点を重要視しており、会社員・公務員は「団らん」と「栄養面」両方をほぼ同じくらい重要視していることがわかりました。それは何故ですか。最も当てはまる理由をひとつお答えください。(n=784)

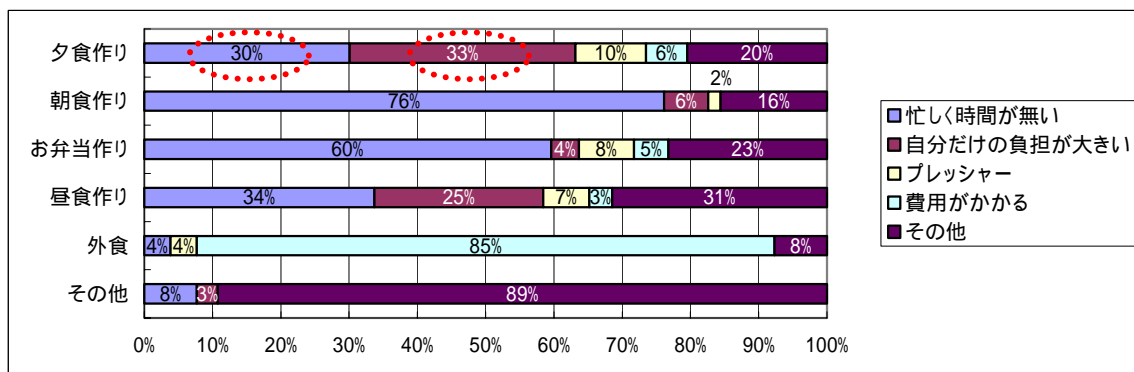


いっぽうで、3食のうち、女性が最も負荷を感じるのは「夕食作り」で、半数の女性が回答しました。その理由としては、「自分だけの負荷が大きい」という回答が3割を超え、「忙しく時間が無い」という回答が続きます。働く女性が多い現在ですが、夕食作りに関しては女性の負荷がまだ大きいのでしょうか。

毎日の食事で、あなたがもっとも負担を感じるのは。(n=784)

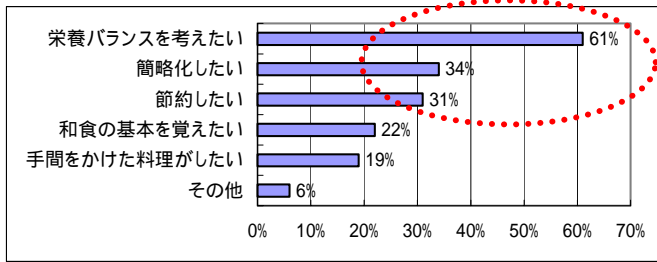


それは何故ですか。最も当てはまる理由をひとつお答えください。(n=784、複数回答)



以上のような日常の中で、「料理でもっとこうしたいこと」を聞いたところ、「栄養バランス」「簡略化」「節約」という回答が上位に挙がりましたが、「和食の基本を覚えたい」「手間をかけた料理がしたい」という回答も、2割近くの女性から挙がりました。

あなたが日常の料理で「もっとこうしたい」と思うことは。(n=784)

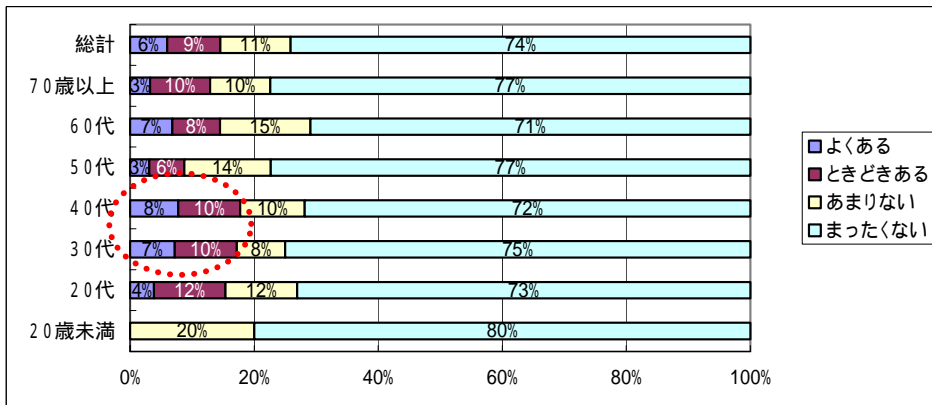


夕食は家族団らんにとって大切なものという認識は大きいものの、その分女性が抱える負荷も大きいというのが現状のようですが、手間をかけた和食の良さをしっかりと体得したいという気持ちも強いようです。

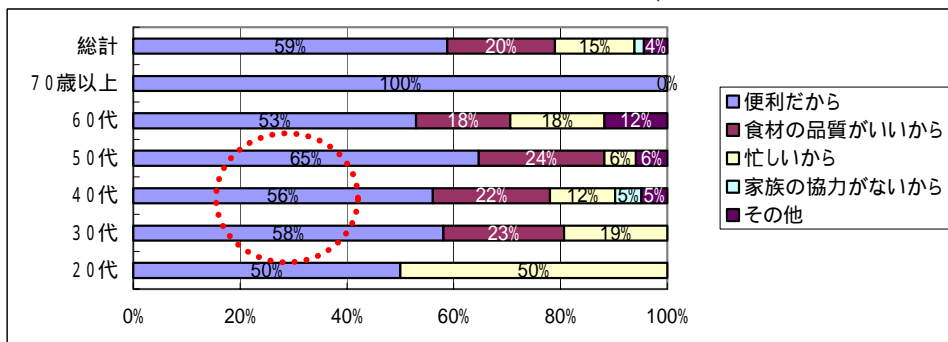
働く女性に必要なサポートは「配偶者の協力」がトップ

以上のように、女性の食事を重視する気持ちと実際の負荷には課題もあるようです。現在、家事のサポートサービスも充実してきていますが、実際に「食材の宅配」「家事代行」などのサービスを利用したことがある女性を調べたところ、30代・40代の利用率が高く、「よくある」と「ときどきある」を合わせた回答が2割にのぼりました。30代前半は特に、労働力率が平成19年には前年比1.2ポイントアップするなど、働く人が増えている世代です。サービスを利用する理由としては、「便利だから」という回答が30代～50代で平均6割にのぼるなど圧倒的でした。

実際に、食材の宅配・家事代行サービスなどを利用されることはありますか。(n=784)

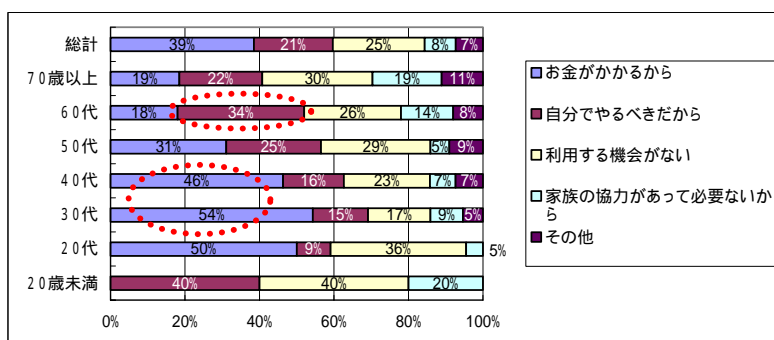


利用する理由は、最も当てはまる理由をひとつお答えください。(n = 114)



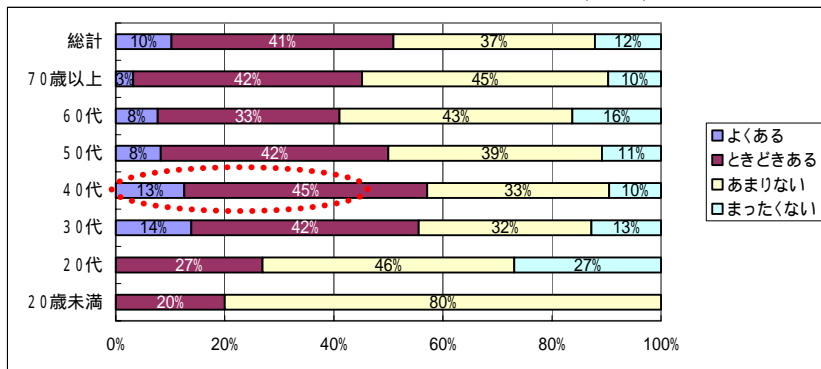
いっぽう、利用していない人にその理由を尋ねたところ、30代・40代は「お金がかかるから」とコストを気にしていたのに対し、60代では「家事は自分でやるものだから」という「考え方」が最も多い解答となりました。負荷は幅広い世代の女性が気にしているものの、世代で捉え方は異なっているようです。

利用しない理由は、最も当てはまる理由をひとつお答えください。(n=670)



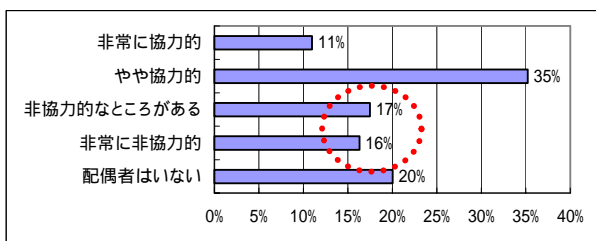
今後「家事サポートサービスが受けられたらと思うことは」という質問に対しては、特に40代女性の7割が「よくある」「ときどきある」と回答しました。

家事サポート（サービスが受けられたら）があったらと思うことは。(n=784)

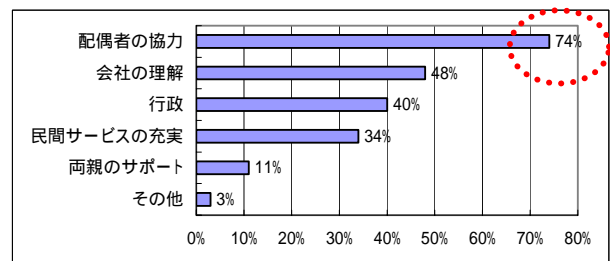


自分の配偶者に対しては「非協力的なところがある」「非常に非協力的」という回答が33%にもものぼる現代女性。今後、働く女性のサポートに必要と思われることを尋ねたところ、「配偶者の協力」「会社の理解」「行政」が上位に上りました。特に配偶者の食事の支度をはじめとした家庭内の様々な協力については、多くの女性が必要としていることが浮かび上がりました。

あなたの配偶者は料理を含めた家事に協力的ですか。(n=784)



今後働く女性のサポートには何が必要だと感じますか。(n=784)



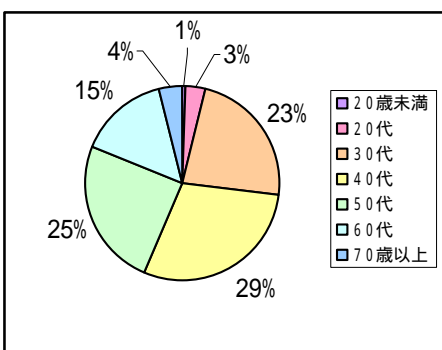
アンケート調査概要

【方法】Web アンケート

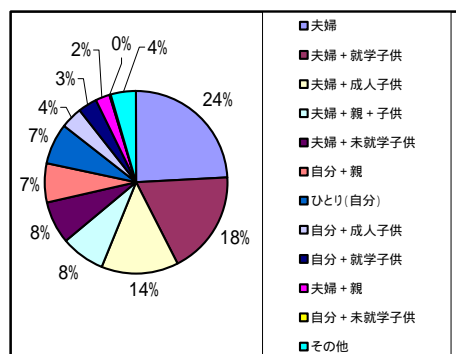
【期間】2008年7月15日～17日

【対象】ノーリツインターネットサイト「NORITZSTYLE ノーリツスタイル つかりコムねん」会員（全国の全世代女性）
有効回答数：784件（発信数：9,294件、回答率：8.4%）

年代 (n=784)



家族構成 (n=784)



職業 (n=784)

